

## 第9回「いなみ まちプロ」会議次第

令和2年8月27日(木)

19:00～

山野交流センター

### 1. 開会挨拶

### 2. 協議事項

#### 1) 市民説明会報告について

##### ①アンケート回答(案)

#### 2) 市長報告(案)について

### 3. 報告事項

#### 1) 経過

7月20日(月) 山野地域づくり協議会役員会説明

7月21日(火) 井波地域づくり協議会理事会説明

7月22日(水) 南山見地域づくり協議会役員会説明

7月29日(水) 高瀬地域づくり協議会役員会説明会

7月30日(木) 市民説明会

#### 2) 今後の日程

①9月7日(月) 19:00～ 井波美術館今後の活用計画報告(よいとこ井波)

②9月10日(木) 9:30～ 市長報告

③9月16日(水) 11:00～ 地域づくり協議会井波連合会市長要望

### 4. その他

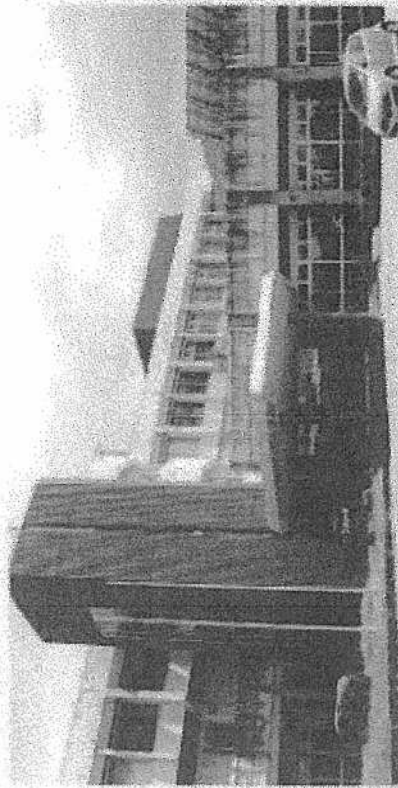
### 5. 閉会

旧井波庁舎活用策

# ものづくり拠点に

## 滞在宿泊施設を整備

**■** 南砺市役所旧井波庁舎の活用を考えた「いなまろプロジェクト」(三谷直樹会長)は、旧庁舎にもものづくりを支える教室やクリエイターが井波地域に滞在するためのアトリエ付き宿泊施設



を整備する構想案をまとめた。民間資金を活用する官民連携(PPP)の手法で整備することを目指す。30日に井波総合文化センターで開かれた佳良阿部議員会で報告した。

整備には、旧庁舎と向かいの児童公園の敷地計1万7千7百平方メートルを活用する。同プロジェクトによると、旧庁舎は耐震性に問題がないため、建物をききただけ取り壊さず、一部改築して整備する。

木彫刻など職人の文化が息づく井波地域の担い手を育成するため、旧庁舎の跡地に3Dプリンターなど工作機

プロジェクトが活用する構想案をまとめた旧井波庁舎

を整備したもののづくり教室を設ける。3層に中長期間滞在できるアトリエ付き宿泊施設を整備し、堅貨の高い都市圏でスタジオを持たない若手クリエイターを呼び込む。

滞在中に地元の職人と交流する機会をつくり、同地域への移住や起業につながる飲食店やサテライトオフィス、公民館、行政センターも整備する。

市が構想案の内容や費用、PPP手法を検討し、方針が決まれば、施設を運営する民間会社やスタート업을募集する。同プロジェクトは2023年4月の施設オープンを目指す。

市は「プロジェクトチームを設け、構想案の実現の可能性を含めて旧井波庁舎の活用に関する方向性を検討したい」としている。

2020/08/01 北日本新聞

# 福野に交流施設提案

## にぎわいづくり 工場跡地を活用 検討組織



複合交流施設の建設候補地として争がるファブリカトヤマ工場跡地。南砺市福野

南砺市役所旧福野庁舎の利活用や福野地域のにぎわいづくりを考える「福野地域提言実現検討組織」は、市民センターや子育て支援スペースなどを備えた複合交流施設を同市福野の旧ファブリカトヤマ工場跡地に建設する案をまとめた。22日夜に同市寺家新屋敷(福野)のア・ミューホールで市が開催した住民との意見交換会で発表した。

検討組織は、分庁舎の跡地利用を考えていた「福野地域まちづくり検討会議」の解散に伴い、2019年に結成。同地域の住民22人で構成し、「人づくり」空き家などの活用、「拠点づくり」の3グループに分か

れて議論を重ねてきた。工場跡地は福野地域中心部に位置し、市が所有する。西側には幼稚園などが整備されたが、東側約1万6千平方メートルは手つかずとなっていた。

意見交換会では、拠点づくりグループが工場跡地に複合交流施設を建設する案を発表。旧福野庁舎内にある市民センターを移転させるほか、高齢者の交流の場や児童の学習スペースを設け、住みやすいまちづくりの実現につなげるとした。民間のテナントやサークル活動のスペース、福野中部まちづくり協議会の事務局なども設ける。施設の面積は1865平方メートル。民間

資金を活用する官民連携の手法での整備を目指し、管理運営は同まちづくり協議会が主体となる方針。空き家などの活用グループは、旧福野庁舎を解体し、住宅分譲地として活用する案を発表。人づくりグループは、若い世代に福野地域

の良さを知ってもらっため、地域で活躍する人を紹介するウェブサイトを開設する考えをまとめた。市は今後、まちづくりの専門家を招いた「リノベーションスクール」を開き、複合交流施設などの実現に向けた議論を深める。

## 小見地区活性化へ議論

### 大山 未来塾がスタート



地区の魅力について話し合う住民たち。小見地区「コミュニティセンター」

富山市小見(大山)の住民たちは23日、地域の将来の在り方や課題解決について話し合うワークショップ「小見校下未来塾」を小見地区コミュニティセンターでスタートさせた。12月までに計4回開き、活性化や交流人口拡大に向けたアクションプランを作成する。地区の人口は約520人で、ピーク時の3分の1以下となっている。住民が一人丸となって活性化への具体

的取り組みを進めようと、自治振興会(山森潔会長)が県の補助を受けて開き、約40人が参加した。NPO法人「まちづくり学校」の金子洋二理事が講師を務め、「主体的に参加し、ビジョンを共有してほしい」と説明。5グループに分かれて地区の魅力を話し合い、「自然豊か」住民が家族的、「小学校にスキーのジャンプ台がある」などと意見を出し合った。

山森会長は「初日から心に話し合ってくれて、磨き直したい」と話した。

# 小杉の志士語り継ぐ

演劇を上演し、さらに認知度を高めたいとした。来場者には藤井にちなんだせんべいが配られた。北日本新聞社後援。

## 大輪も笑顔も輝け

福野東部地区 南砺市福野地 もろいこと部会 同地区で花火1 新型コロナウ 中止が相次ぐ中 ようと「東部ス 題して実施。医 気持ちも込めた 午後8時から の農道で、3号 間打ち上げた。 密集を避け、